

令和 3 年 6 月 29 日

学校法人 宮島学園

学校関係者評価委員会日時 令和3年6月21日(月) 16:00～18:00 場所:学園本部会議室(リモート会議)

会議出席者 星野 次郎(司法書士) 嘉藤田章博(卒業生・就職先) 米山 隆(業界関係者)
(敬称略) 五味川博都志(町内会長) 安丸 定則(学園評議員)

学校側参加者 諏訪雅英(理事長)・高野佐利子(学校長)・門間克典(統括副学校長)城川智子(本部長)

目的

- 1 学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる。
- 2 学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校づくりを進める。
- 3 設置者は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援を行う。

1 令和2年度の重点目標

社会ニーズに必要な人材を育成し、業界の即戦力として活躍できる教育活動推進のための学習環境の構築と職員の資質向上を目指す。

2 令和2年度の経営方針

学校運営に関する各種制度及び規定関係を整備し、学校運営体制を見直し、強化する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A・B・C 採点)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	重点目標の内容は、学校や学生の実態から見て、適切である。	A	今年、新型コロナウイルス感染予防のため、4、5月はオンラインでの授業となったが、その中でも一人一人と相対しての授業の取組ができた。	A	A
	学校の理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか。	A	新型コロナウイルス感染予防のため、4月入学が中止となり、保護者のオリエンテーションができなまま、6月に授業が再開になった。が、テキストは保護者全員に送付し、周囲出来ていると思う。	A	A
学校関係者評価者による意見	1人1人の学生と向き合い、学生個々の個性を尊重しつつ、指導している様子が見られ良いと思う。				
教育指導	人材育成目標の達成に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	B	業界で活躍している講師、卒業生を招き授業を組んでいる。	B	A
	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	A	コロナ禍の中、感染予防対策を考慮し、大勢の来客を招いてのイベントを最低限度の人数で行ったが、学生の達成感満足できるようベスト体勢で行えた。	A	A
学校関係者評価者による意見	少数制の体系での授業は、学生にとっていい環境にあると思うし、業界で活躍している卒業生の生の声を聞けるのは、いい刺激になっていると思う。今年は新型コロナウイルス感染の予防の対策もいろいろ工夫しながらよくやったと思う。				
学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	A	コロナ禍により、今年は校外実習等に取組むことができなかったが、面談時間を十分にとり、リモート面接などにより内定を取れた。	A	A
	学生に対する経済的な支援制度は整備されているか。	A	修業支援制度を申請し、給付金奨学金・授業料減免制度を取入れた。支援機構の学生支援緊急給付金も受理で来た。	A	A
学校関係者評価者による意見	修業支援制度の導入により入学金免除、授業料減免等の支援が、より経済的な支援になった。また、学園独自の高校推薦・特待生制度等により学費の一部が免除になる制度も、保護者の学費負担の軽減になっていると思われる。また、支援機構の学生支援緊急給付金も、アルバイト収入が減った学生にとってはありがたい制度だった。				
改善策・次年度に向けた取組					
<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化への対策・補修は必須の課題。この教育環境として重視すべき点はイン ターンシップや実習を含めた学内外の教育体制である。引き続き、企業実習の充実を図ってきたい ・少子化の現状から財務は厳しく、月別の経費管理をさらに行っていききたい。経費削減にも限度があるので、バランスを見て、取り組んでいく。 ・コロナ禍にあつての、学生の体調管理・感染予防には、これからも慎重に取り組んでいきたい。 					